

農林水産省の「クビアカツヤカミキリ防除戦略」の推進に向けた具体的な対策・取組

- 農林水産省は、果樹生産者の経済的被害を防止、緩和するため、果樹園地を主なターゲットとし、以下のような対策・取組を進めていきたい。

【農林水産省の役割】

- ・ クビアカツヤカミキリによる農林業に係る被害の防止に関する施策を総合的に策定。
- ・ クビアカツヤカミキリの生態等の科学的知見の収集、新たな防除技術の研究開発や実証等を推進。

【具体的な対策・取組】

- 現地の実情に合わせ、伐採や農薬散布の他にネット被覆などの予防的措置を組み合わせた、総合的な防除対策を推進。

- 被害状況の可視化など効率的な調査方法に資する技術導入を推進。

(総合防除に用いられる対策例)



樹体のネット被覆



農薬の散布

(活用が期待される民間技術の例)

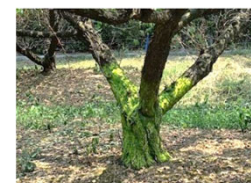


スマホアプリで生物を判定



分布状況のDB化、分析
※株式会社バイオーム HPより引用

- フラス診断や地理情報解析を活用した早期発見・被害予測技術の開発を含め、発生段階や地域特性に応じた総合防除体系の構築を推進。



(モモ・ウメ等の樹種毎の技術検証)

➡ R9年度予算等の活用により、地域一体となった防除を推進し、未発生地域も含めたクビアカツヤカミキリの早期発見・早期防除を徹底

防除戦略を受けた当面の取組事項について

○ 早急に実施すること

- ・ 国は、地域別に幼虫の活動時期が異なることを踏まえ、地域ブロックごとに説明会を開催(9月中旬～10月上旬目途)。
- ・ 説明会では、戦略の周知と合わせ、都道府県の総合防除計画等の策定※や、発生状況に関する緊急調査の実施(11月末までを目途)を働きかけ。

※特に、既発生県及び隣接県において総合防除計画が未策定等の場合、年内の対応を働きかけ

＜参考＞

地域ごとの幼虫の活動時期 ※ 各都県HPを参照

栃木県:10月末、東京都:11月中旬、埼玉県:11月末、大阪府:11月末



- ・ 本調査において、新たな被害樹(フラス)を発見した場合、成虫が脱出する時期までに、伐採やネット被覆等の分散防止措置を徹底。



○ 令和8年度下半期に実施すること

- ・ 国は、地域住民等への周知も念頭に、わかりやすい広報媒体を作成(10月末まで)
- ・ 防除戦略の周知(SNS等)とともに、地方公共団体と連携して、地域住民を含む関係者を対象に、集中的な広報対策を実施。



○ 令和9年度以降に実施すること

- ・ 令和9年度予算を活用し、地方公共団体と連携し、総合防除計画や地域防除戦略等に即した調査や地域の実情に応じた面的な防除対策(伐採、農薬散布等)を強力に推進。

クビアカツヤカミキリ対策に係る鈴木農林水産大臣の和歌山県現地調査の概要

1. 視察先

- (1)場所:和歌山県かつらぎ町(すもも園地)
- (2)日時:令和8年9月3日(木)

2. 視察時の鈴木農林水産大臣の主なご発言

- 被害の早期発見と初動対応とともに、地域が一体となって取り組むことで被害の拡大を防ぐことが重要。対策本部も立ち上げたが、これまで以上に危機感を持って対応を進めたい。
- 樹種によってフラスの出方が異なるため、対応を整理すべき。
- 樹を一本ずつ確認するのは困難であることから、新技術を活用した効率的な調査・防除方法の検討が必要。
- 被害に対応した十分な予算措置が必要。



鈴木大臣のfacebookより引用

被害園地において、幼虫の掘り取りを体験